**２０２３年７月29日(土)　ベルウィン（あさま）会場**

 岸本尚毅

 氷室守けふは朝から草を刈り 近藤作子

〇 養蚕の栄へし村の氷室かな 近藤作子

 とりどりの麦藁菊を供花とせり 北杜　駿

 沢瀉の葉をとび下りて雨蛙 山田真砂年

 空濠は空蟬ばかり薄あかり 奥山貞周

 山田真砂年

 氷室守けふは朝から草を刈り 近藤作子

 草茂る虚子の小道に虚子の句碑 神山　洋

 片蔭にポストが消えた跡がある 河西志帆

 格子戸に転居の知らせ西日濃し 塚田佳都子

〇 千年の松の膚（はだえ）や日の盛り 小倉貴久江

 国見敏子

 電柱の片蔭この身よぢりをり 小倉貴久江

 片蔭の小諸のどこをどう歩き 岸本尚毅

 稲穂いま成長痛の揺れの中 山田真砂年

 朝羽ふる風を糺して夏の鷹 北杜　駿

〇 大浅間冠りて余す夏の雲 大野田井蛙

 北杜　駿

 与良どこへ行きても涼し水音かな 山田真砂年

 片蔭を貰ひそびれて坂の上 大野田井蛙

 浅間山噴火のごとく雲の峰 横山全徳

 日盛りにこの身を晒す虚子の道 大野田井蛙

〇 的を射るをみなの腕沙羅の花 大木満里

 塚田佳都子

 土用風入れてこゑなき大手門 小倉貴久江

〇 片蔭にポストが消えた跡がある 河西志帆

 水音は弛まぬ祈り岩清水 北杜　駿

 小心にして大の字に昼寝かな 岸本尚毅

 かの山の火のはらわたや雲の峰 岸本尚毅

 小倉貴久江

 格子戸に転居の知らせ西日濃し 塚田佳都子

 峰よりのあをなだらかやひめぢよをん 大木満里

〇 草茂る虚子の小道に虚子の句碑 神山　洋

 石二つかさね野仏昼の虫 近藤作子

 大浅間冠りて余す夏の雲 大野田井蛙

 大野田井蛙

 石仏に泪の跡や蟬しぐれ 塚田佳都子

 石二つかさね野仏昼の虫 近藤作子

 千年の松の膚（はだえ）や日の盛り 小倉貴久江

 暮れ泥む城址を統ぶる蟬しぐれ 神山　洋

〇 眼の形くつきり残し蛇の衣 横山全徳

 神山　洋

 片蔭を貰ひそびれて坂の上 大野田井蛙

 片蔭にポストが消えた跡がある 河西志帆

 いくすぢも日矢の遊べる捨氷室 国見敏子

〇 病葉の積もる風穴トタン屋根 近藤作子

 空堀の実に深々ほととぎす 横山全徳

 奥山貞周

 氷室守けふは朝から草を刈り 近藤作子

〇 いくすぢも日矢の遊べる捨氷室 国見敏子

 沢瀉の葉をとび下りて雨蛙 山田真砂年

 稲穂いま成長痛の揺れの中 山田真砂年

 朝羽振る風を糺して夏の鷹 北杜　駿

 横山全徳

〇 土用風入れてこゑなき大手門 小倉貴久江

 石二つかさね野仏昼の虫 近藤作子

 大浅間冠りて余す夏の雲 大野田井蛙

 雲の峰微動だにせず風見鶏 山田真砂年

 水音の著き町なり麻のれん 塚田佳都子

 大木満里

 土用風入れてこゑなき大手門 小倉貴久江

〇 片蔭の小諸のどこをどう歩き 岸本尚毅

 片蔭にポストが消えた跡がある 河西志帆

 水音の著き町なり麻のれん 塚田佳都子

 氷河期の花の一輪氷室山 横山全徳

 近藤作子

 格子戸に転居の知らせ西日濃し 塚田佳都子

 草茂る虚子の小道に虚子の句碑 神山　洋

〇 与良どこへ行きても涼し水音かな 山田真砂年

 電柱の片蔭この身よぢりをり 小倉貴久江

 眼の形くつきり残し蛇の衣 横山全徳

 河西志帆

 かの山の火のはらわたや雲の峰 岸本尚毅

 氷室守けふは朝から草を刈り 近藤作子

 くちなはと知らず生まれてしまひけり 国見敏子

〇 片蔭を貰ひそびれて坂の上 大野田井蛙

 小心にして大の字に昼寝かな 岸本尚毅